見附市立見附第二小学校　学校だより第１１号

# 杉の子

令和5年2月
見附市杉澤町 3561 番地
TEL 0258-62-0314
http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mdaini/
教育目標 「学びを高める子ども」

## 令和４年度学校評価と次年度の取組について（お知らせ）

今年度、「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～学び、かかわり、ふりかえり＆未来デザインを中核に～」を重点目標とし、教育活動を進めてまいりました。12 月の各種アンケート結果等をもとに、今年度２回目の学校評価を実施しました。その結果と次年度の取組の概要をお知らせいたします。

## 学校評価について

学校評価は、児童がよりよい学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展を目指すために行います。学校評価は、年間の教育活動について、

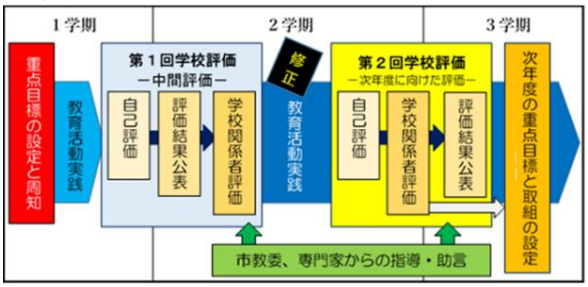
①児童・保護者を対象に行うアンケートを資料に、学校の教職員による自己評価

②自己評価の結果について保護者、地域住民の代表者による学校関係者評価

③自己評価・学校関係者評価結果を資料に学校運営全般について、専門的・客観的立場から評価する第三者評価

の３つの形態で構成されます。当校における学校関係者評価は、学校運営協議会において行っております。今回お示しするのは、学校の教職員による年度末の自己評価の結果です。

【学校評価の年間スケジュールの概要】




## 学校評価－年間の教育活動と児童の様子

今年度も、保護者、地域の皆様のおかげで、子どもたちは元気に登校し、学習に、運動や遊びに、学校や学級の仕事に取り組むことができました。学校では今年度「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～学び、かかわり、ふりかえり＆未来デザインを中核に～」を重点目標としました。年間を通した子どもの成長の姿（概要）は次のとおりです。

○知育（確かな学力）、徳育（豊かな心）、体育（健やかな心身）ともに、できることが増えて喜びを感じている子が多いです。他の人と力を合わせて何かをやり遂げることの大切さに気付き協力できている子が多いです。

○学力の基礎基本は概ね定着しています。「学習で習ったことをいろいろな場面で使うことができるようになっている」など、以前よりも、主体的に考え、学ぶ児童が増えています。休日に計画的に学習する等の生活習慣の改善が図られている子が増えました。しかし、昨年度同様、メディアの使用状況の二極化が進み、メディア使用の見直し「メディアストップ力」が必要な子がいます。

「知育」「徳育」「体育」については、次頁からのとおりです。

# 1 知育（確かな学力の向上）－基礎基本を身につけ、深く考える子どもの育成－

【成果目標】
① 月例テスト 90 点以上
② 家庭学習時間 10 分×学年の数以上
◇ 学校以外で週4日以上読書（保護者）
◇ 適切な学習指導がなされている（保護者）
③ 前よりも進んで考える
④ 学習したことをいろいろな場面で使う

【全校での取組】
◎基礎基本の定着を図る取組
- ○ 家庭学習の活性化
  - ●「杉の子家庭学習ナビ」の活用
  - ● 家庭学習プランニングの実施
- ○ 基礎基本定着の確認と徹底
  - ● 漢字・計算タイムの内容・方法の工夫・改善

◎主体的な学びをつくる取組
- ○ 授業改善
  - ● 考えをもつ場面と交流する場面での手立ての工夫
  - ● 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」に準じた指導
- ○ 学び方の習得
  - ●「杉の子できる・わかるナビ」を活用した指導の実施

【成果目標に対する評価】

※肯定的回答が 80%以上はA、70%以上 80%未満はB

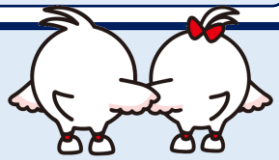
| 成 果 目 標 | 評 価 前期 | |
|---|---|---|
| ① 月例テスト 90 点以上 | A | 「家庭学習カード」や「杉の子 家庭学習ナビ」を活用したり、「自主学習フェス」を開催し掲示したりすることで、家庭学習の習慣化が進み、質・量ともに向上しました。<br>学校では、読書をしている姿をよく見ます。家庭での読書習慣をより育むよう家庭と連携していきます。<br>③の肯定的評価が 100%を維持しています。④も 100%となりました。総合的な学習の時間「杉の子プラン」と教科の学習とを関連させて指導しながら、授業改善を行ってきたことが、成果につながっています。 |
| ② 家庭学習 時間 10 分×学習学年の数以上 | A | |
| ◇ 学校以外で週４日以上読書（保護者評価） | B | |
| ◇ 適切な学習指導がなされている（保護者評価） | A | |
| ③ 前よりも進んで考える | A | |
| ④ 学習したことをいろいろな場面で使う | A | |

【次年度に向けて】
○家庭学習カードと「杉の子 家庭学習ナビ」を活用した家庭学習プランニング、互いの自主学習の取組を紹介し合う「自主学習フェス」を継続し、学ぶ楽しさを感得しながら自ら学ぶ姿勢や学習習慣を確実に育んでいきます。また、自主学習の取組には個人差があるため、今後も指導を継続していきます。
○授業場面での学び方を可視化した「杉の子できる・わかるナビ」を使い、基本的な学習習慣の定着を図ります。また、今年度作成した「杉の子できる・わかるナビ－タブレット版」を指導に活用し、タブレット端末の適切かつ有効な活用を目指します。
○総合的な学習の時間「杉の子プラン」の実践を行い、個々に考える場面、他と交流しながら考えを深める場面を大切にした授業づくりを更に進めます。

## ２ 徳育（豊かな心）－自他を大切にのびのびと生活する子どもの育成－

【成果目標】
① 自分によいところがある
② 学級や学校で協力したことがある
③ 難しいことでも挑戦する
◇ 適切な人間関係づくりをしている（保護者）
④ ふるさとが好き
⑤ 人の役に立つ人間になりたい
◇ 地域とのかかわりを大切にしている（保護者）

【全校での取組】



◎ 社会性を育む取組
○ 体験活動とリンクさせた指導
- 豊かな体験活動の創出
  - 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
  - 地域と協働する活動の実施
  - 異年齢集団活動の充実
- 体験活動事前・事後学習の充実
- キャリア・パスポートの活用とキャリア相談の実施
- 道徳科授業の充実-体験活動と関連付けた指導の実施
- 子どものアイディアを生かす特別活動の実施

【成果目標に対する評価】

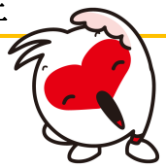
※肯定的回答が 80%以上はA、70%以上 80%未満はB

| 成 果 目 標 | 評 価 前期 | |
|---|---|---|
| ① 自分によいところがある（3年生以上） | A | ①以外、全目標で肯定的評価が 92%以上となりました。体験活動前にめあてをしっかり立て、事後にどれだけ達成できたか振り返ることや、「キャリアパスポート」の活用で、自分のがんばりや自分の成長を知り、自信をもつことができました。<br>児童の行動の変化等を的確にとらえ、家庭に連絡し共有することで、連携を図ることができました。 |
| ② 学級や学校で協力してうれしかったことがある（3年生以上） | A | |
| ③ 難しいことでも挑戦する（3年生以上） | A | |
| ◇ 適切な人間関係づくりをしている（保護者評価） | A | |
| ④ ふるさとが好き | A | |
| ⑤ 人の役に立つ人間になりたい | A | |
| ◇ 地域とのかかわりを大切にしている（保護者評価） | A | |

【次年度に向けて】
○異年齢集団での活動、地域の方々との交流で、様々な役割を経験することで、協働性、共生意識、自己有用感を高めていきます。
○「めあて立て」「振り返り（自己評価）」と教育相談をリンクさせ、今と未来の自分について考え、実践すること（「未来デザイン」）で、自己決定力と目標に向かい粘り強く取り組む力を育みます。
○「キャリア・パスポート」を活用し、自己のがんばりや成長を認識、自覚させ、自分のよさを捉え直すことを大切にして、より自己肯定感を高めていきます。
○児童が、自分たちの生活をよりよくするための杉の子児童会活動での話し合いの機会を、積極的に設定していきます。

# ３ 体育（健やかな心身）－自分の健康・元気を自分でつくる子どもの育成－

【成果目標】
① メディア使用時間１日2時間以下
② 休日の過ごし方を充実させる
③ 好き嫌いしないで食べる
◇ バランスのよい食事の提供（保護者）
④ 体力テスト（シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び）の記録向上



【全校での取組】
◎ 望ましい生活習慣・食習慣を育む取組
○ メディア・コントロール力の育成
- 教科等での学習指導と個別の保健指導の実施
- 生活ふりかえりカードの活用
- 生活習慣強調期間の設定
- メディアストップ力の育成―PTAとの協働

◎ 体力向上の取組
○ 体育授業中の活動の工夫
○ 持久力、スピード、筋パワーの向上に焦点を当てた、業間運動（杉の子タイム）の内容と方法の工夫

【成果目標に対する評価】

※肯定的回答が 80%以上はA、70%以上 80%未満はB

| 成 果 目 標 | 評 価 前期 | 評 価 |
|---|---|---|
| **① メディア使用時間１日２時間以下** | **B** | 休日、計画的に学習したり、適度にメディアを使用したりするなど、規則正しく生活しようとする児童が増えています。その一方で、平日・休日ともにメディアを４時間以上使用している児童がまだいることは残念です。食育については、外部指導者と連携して取り組み、児童の意識は少しずつ高まっています。体力向上については業間運動の持久走タイム等の工夫により、シャトルランの記録が伸びた児童がたくさんいました。 |
| ア テレビ・ビデオ・DVD 視聴 2 時間以下 | B | |
| イ ゲームをする時間 2 時間以下 | B | |
| ウ SNS 使用、Web 動画サイト視聴等 2 時間以下 | B | |
| **② 休日の過ごし方を充実させる** | **A** | |
| ア 計画的な家庭学習 | A | |
| イ 規則正しい生活（早寝・早起き、食事） | A | |
| ウ 適度なメディア使用 | B | |
| **③ 好き嫌いしないで食べる** | **A** | |
| **◇ バランスのよい食事の提供（保護者評価）** | **B** | |
| **④ 体力テスト（シャトルラン、50m走、立ち幅跳び）の記録向上**<br>※ 11 月の結果と比較し、評価する | **B** | |

※【参考】成果目標①に関連するメディア使用に係るアンケート結果（肯定的回答の結果）

| 対象 | 質 問 | 後期 | 対象 | 質 問 | 後期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 児童 | TV・ビデオ視聴時間 1 日 2 時間以下 | 70%（市 72%） | 保護者 | ゲーム、スマートフォン使用についてルール、約束を決めている | 90%（市 84%） |
| 児童 | ゲームで遊ぶ時間 1 日 2 時間以下 | 70%（市 74%） | 保護者 | （お子さんは）ルールや約束を守って、ゲーム、スマートフォンを使用している | 65%（市79%） |
| 児童 | 携帯電話・スマートフォン使用時間 1 日 2 時間以下 | 77%（市79%） | | | |

【次年度に向けて】
○依然、３種目の体力レベル向上が課題です。業間運動（杉の子タイム）で課題克服に特化したサーキットトレーニングを継続して行い、体力向上を図ります。また、体育の授業等でＩＣＴ機器を活用した取組も行っていきます。
○メディア・コントロールのポイントは「自分で使用を止められる」ことです。特に、スマホやゲームとの適切なかかわり方を身に付けることが課題です。個別の保健指導に取り組むとともに、家庭と協力して、手立てを講じ、適切にメディアとかかわる態度を育てます。